

企画総務委員会 送付 29 - 5

CO2 を削減する街路樹の生存を求める陳情

受付年月日 平成 29 年 8 月 7 日

陳 情 者

陳情書

(趣旨)

明大通りの街路樹(プラタナス)が道路工事のため伐採や移植が予定されていますが、地球温暖化を考えて、街なかの樹木を残して下さい。樹木の生存が環境に寄与します。

地球温暖化が急速に進行しています。ここ数十年間、家庭や企業や事務所で“省エネ”を実践して来ていますが、追いつかない状態です。

その対策として、人ができる最も有効な方法は CO2削減の他にありません。樹木から得る自然の恩恵は、光合成によって木が大気中の CO2を吸収することです。その量は—

- 1、80年のスギの木一本が1年間に吸収する量は 14 kg
- 2、太さ約 90cmの一本のカラ松は 1400 kgを吸収
- 3、直径約 30cmの桜の木一本は 760 kgを吸収

おとな一人が1年間に約 350kg の CO2を吐き出すと言われているので、平均数を出すと、この3本で6人分の呼吸を支える計算です。(14+1400+760=2174 kg ÷ 350 kg=6 人)また車一台が1年間に排出する CO2は約 2300 kgですから、この3本で約車1台分が支えられます。(2174kg ÷ 2300 kg=0.94 台)

千代田区は東京唯一の“環境モデル都市”として、その質と個性を発信していく義務があります。

明大通りに並ぶ 70 本の街路樹を無くすことは、とてつもなく CO2削減の努力に矛盾する行為です。上の3本分の平均 CO2吸収量を 725 kg (14+1400+760=2174 ÷ 3=725)として計算すると、70 本の樹木は1年間に 50750 kg(725 kg × 70=50750 kg)の CO2を吸収するはずで、約 145 人分(50750 ÷ 350 kg=145 人)の CO2が削減できることになります。

注目すべきは、プラタナスの木が大きな葉を持っている事です。葉の面積が大きいほど CO2削減を活発にします。明大通りは全て成木なので、全体としての貢献度は大変大きく、植え替え行為は環境への冒瀆といえます。

伐採の主な理由が歩道の拡幅や段差解消のためと聞いていますが、人を含め生物が織り成す生態系サイクルにおいて、樹木は不可欠の役割を担っています。それを無視して、景観や便利さを追求していいものでしょうか？ CO2削減に真剣に取り組んでいる私にとってはやり切れません。

現今の究極的な技術と共に学者と専門家の知恵を駆使して、ぜひ 71 本の街路樹

の生存の実現をお考えください。

以上

平成29年8月7日

千代田区議会議長 松本 佳子 殿